

---

# 風邪

寿々

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

風邪

### 【Nコード】

N8684A

### 【作者名】

寿々

### 【あらすじ】

題名どおり、日番谷くんが風邪をひいた話。

## （前書き）

この小説には男×男でキスシーンがあります  
（そんなたいしたもんじゃないけど）  
苦情を押し付けられても困るので  
苦手な方は絶対に見ないでください。

「ケホッ……。コホッ……」

「隊長？風邪ですか？」

今日は大事な会議があるのに……

日番谷は風邪をひいてしまった。

「今日は、部屋で休んでたらどうです？それか、四番隊の救護詰所とか」

「ええ！？会議が……」

乱菊はニコツと笑って日番谷の背中を押した。

「会議は、私が出ときますよ。副隊長でもいいいでしょっ？……つて、なんですかあ、そのあからさまに疑ってる目！」

「……ほんとに出てくれるんだな？」

「もちろん！」

「じゃあ……休もうかな……」

日番谷は重い足取りで四番隊救護詰所に向かった。

(だりい……)

「ひ……っ日番谷隊長！？凄い熱ですよっ！」

出てきた四番隊の奴が、日番谷を見たたん、部屋まで担ぎ込んだ。

日番谷の病室は、丁度、建物の一西の端にあった。

そこは、いつも使われることの無い、隊長格が使う部屋だった。

「あら……。あそこの部屋、電気がついとる。誰か寝てはるん？」

「つと……日番谷十番隊長が、熱をだされて……」

「ふん、あ・そ」

「げほ・・・ごほ・・・つ。誰か来てくんねえかな・・・こんなんじや、林檎もまともに食べねえよ・・・」

日番谷の熱は優に三十九度を超えていて、指一本動かせないくらいになっていた。

「・・・喉・・・いてえ・・・」

ガラッ！

「十番隊長はくん。大丈夫？」

扉のところには、市丸ギンが立っていた。

「市丸・・・？何でこんなところにいるんだよ・・・」

「いややなあ。珍しくここの部屋の電気がついてたから気になって」

「どーも」

「つれないなあ・・・」

市丸は机の上にある林檎に気がついた。

さつきから全然手をつけてないように見える。

「林檎、食べへんの？」

「食べたなくても食べねえんだよ・・・」

ぱくつ。市丸は自分の口に林檎を含んだ。

「あっ！？」

そしてそのまま、日番谷の口の中に林檎を押し込んだ。

「んぐっ！~~~~っ！！」

「なにしやる！？」

「だって食べたかったんやろ？それに・・・」

風邪って人にうつしたら治るそうやし」

市丸は部屋から出て行ってしまった。

「隊長！もう治ったんですか？」

市丸が言っていたとおり、日番谷の風邪は一日で治ってしまった。

「ああ、それで、会議には出てくれたんだろうな？」

「あー、はい……。で……。出ました……。かな……。」

「かな！？」

「だってーっ！雛森ちゃんとかと遊んでたらわすれてたんですもん！」

「いい加減仕事しやがれー！！」

「ゲホ……。イッルー。水ちょーだい」

「市丸隊長！だから言ったじゃないですか！病人にちょっかいだしに行くなって！」

「はーい。以後気イつけまーす……。」

この日、市丸が風邪をひいたのはいうまでもない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8684a/>

---

風邪

2010年10月9日14時54分発行